

理工学部生のための履修の手引きに寄せて

理工学部長 木村 光宏

新入生の皆さんへ

入学おめでとう。理工学部では、各学科・専修ごとに入学定員を設け、それぞれに入学生を迎えています。各学科は学科のもつ特徴に沿い、学生が「ものづくり」や「仕組みづくり」、また「科学のみちすじ」を捉え、理解し、実践するための知識や技術を教授する構成となっています。みなさんは志望する学科を選ぶ際、どんなことを学ぼうかと、いろいろ悩まれたかもしれません。また今も入学した学科に関して悩んでいる人もいるかもしれません。しかしひとまず、自分の所属先となった学科に腰を落ち着けて、大学生活なるものを開始してみてください。今の時点で確固たる目標がある人は、それに向けて着実に努力してください。しかしそうでもない人は次のように考えてはどうでしょうか。少し先のことであっても、想定通りにはならないものです。自分のなりたいもの、やりたいこと、そういうものも自分の経験や、今後触れていくものによって変化していきますから、今の時点で確固たる目標がなくても、今はむしろその変化する自分を楽しんではどうでしょうか。そのうち何か方向性が固まっていくでしょう。したがって、大学生活においては、好奇心のアンテナを立てて広い視野を保ち、今まで気づかなかったことに気づいたり、学問上にある、自分にとってちょっと面白いかもしれない、ということに触れたら、そこを自分で深掘りしてみるというというような、自分の知的好奇心というものを更に磨く姿勢をもつことから始めてもらいたいと思っています。

この履修の手引きなる冊子は、そのためのガイドであり、ルールブックでもあり、科目のカタログでもあります（科目の詳しい内容については、ウェブシラバスを活用してください）。主な執筆者は皆さんの先生方です。よく読み込んで、自分の知的好奇心を満たしつつ、社会に何らかの形で貢献し得る人物となって卒業し、そこから新たに出発して行くことを期待しています。

上級生の皆さんへ

皆さんは大学生として慣れてきたところでしょうか。いや最終学年の人はむしろ落ち着かない気分かもしれません。しかし少し立ち止まって次のことを考えてみてください。一生を通じて心の底にもっておくべきものの一つは、何をもって人生を豊かにするか、の視点だと私は思うのです。

本学の学生である残りの期間、教養科目や専門科目を学ぶことから得られる知識や技術、また学修以外の諸活動を通じて得られる経験、いわゆる『教養を積むこと』が、これからの皆さんの人間力（この言葉の定義は皆さんにお任せします）の向上に寄与することを、ひとりの大学人として願っています。